

確かな安全管理を実現できる 組織の概念

池田裕二郎
J-PARCセンター

平成25年8月9日
第5回 有識者会議

1

安全文化の創成：3つの柱

- 安全を最優先とする組織体制の構築
 - センター長直轄の安全統制
 - 安全評価の外部委員による透明性
 - 安全監査機能の強化
- 安全を施設のすみずみまで浸透させる行動マニュアル
 - 兆候を察知し、行動に移せる体制
 - 安全運営を施設運営の基本理念に据えたマニュアル
- 安全を継続的に持続発展させる文化の醸成
 - スローガン
 - センター員・ユーザー教育
 - 放射線事故を想定した事故対応訓練

安全な
組織

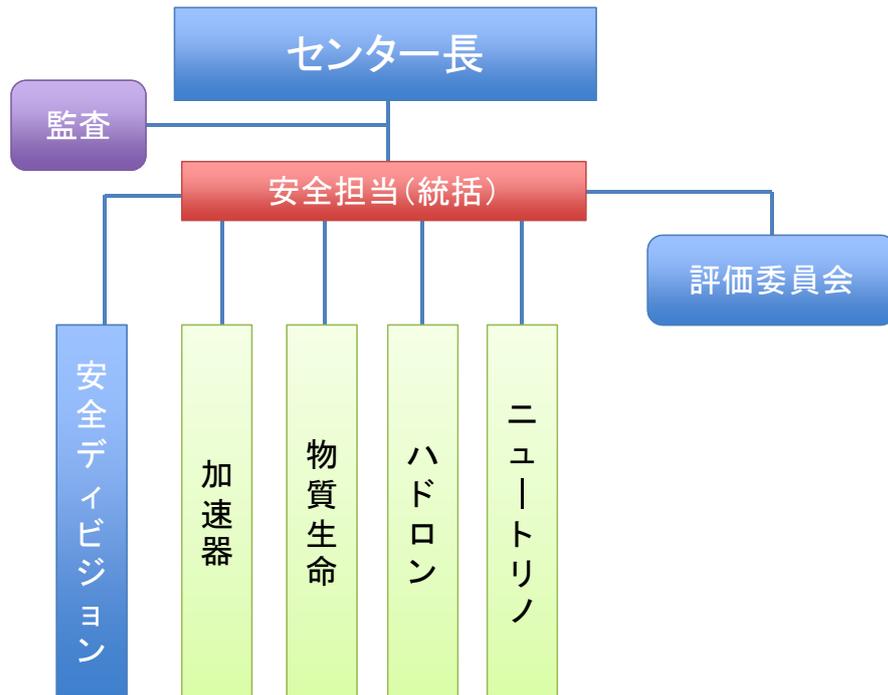
安全な
現場

安全の
持続

2

センター長直轄の安全統制

センター長が安全担当に指示し、安全管理に関する監査を実施
安全担当は、外部監査を依頼



3

安全管理体制の抜本的な改革

- J-PARCはJAEAとKEKが共同で運営する利用施設、成果を最大にするミッション、
- ハドロン事故からまなび、サイエンスが安全に支えられていることが明らか、
- J-PARCは安全を最優先の施設として再生
- 施設はもとより、ユーザ、地域住民の安全を守る、そこで、
- センター長が責任を負うJ-PARCセンターの安全管理体制の抜本的見直し

① 外部の力の積極的導入

- ・安全推進室(安全統括)を置く: 外部専門家を室長とし、透明性、独立性を高める
- ・外部委員による安全評価委員会: 外部の専門家による重要事項の審議

② 指揮命令系統の明確化

- ・ハドロン、ニュートリノセクションの設置
- ・組織と施設の統括者の責任と権限の一致
- ・緊急時対応に迅速に移行できる「注意体制」の導入

③ 放射線管理の統一基準による新たな仕組み

所掌施設によらないJ-PARCセンターとして一元的に管理

4

J-PARCセンターの新安全組織構成概念

①外部専門家の血を入れた
安全の統括機能の導入による
抜本的改革



③JAEA・KEKの区別をなくし、
一元化した新たな管理体制の導入

5

センター長の責任と権限

- センター長の責任で関係各所に通報 **対外**
- 安全体制構築に関する責任と権限のJAEAとKEK母体組織からの委譲 **対内**
 - セクションの追加権限: 指揮系統のや管理系統の明確化
 - 責任者のJ-PARCセンター本務

6

安全推進室(統括)について

- 安全統括は副センター長クラス、センター長の直属
- 安全ディビジョンを所掌
- 各施設の安全に関わる事項を統括
- これを組織することで変わること
 - 機能の明確化、業務内容の整理
- 役割、機能
 - センター長への助言
 - 緊急時対応の本部設置と司令塔
 - 安全にかかわる規定類の整備指示
 - 安全審査の事務局業務
 - 安全協定締結に向けた業務統括
 - 教育訓練、事故等の実地訓練
 - 安全文化醸成活動の策定・先導

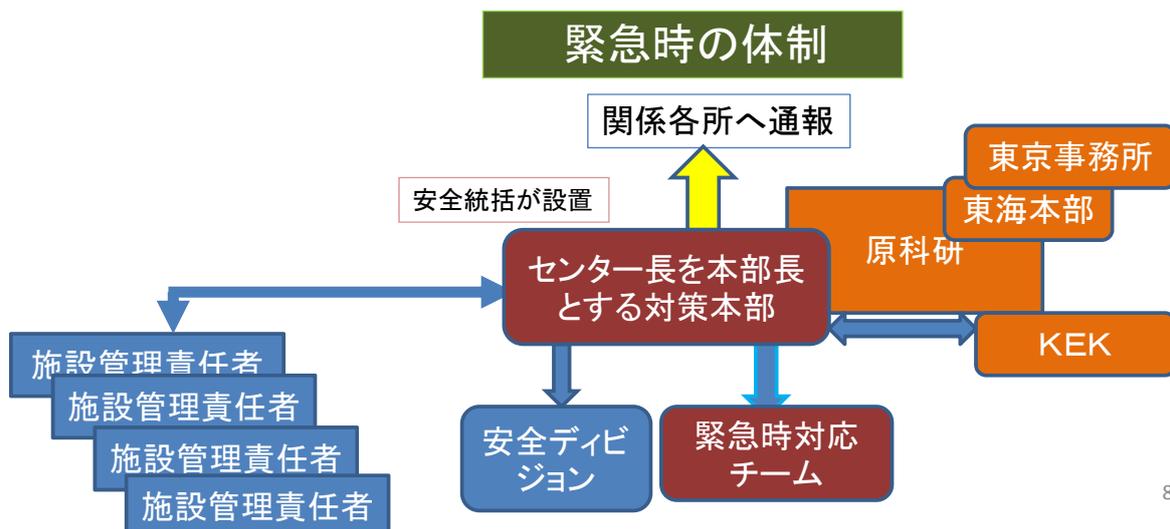
7

緊急時体制(案)

• 緊急時の統括の抜本的改革

– 安全統括の機能役割:

- 大きな権限: 緊急対策本部の設置、安全ディビジョンの指揮、センター全体安全の司令塔、外への通報の起点、



8

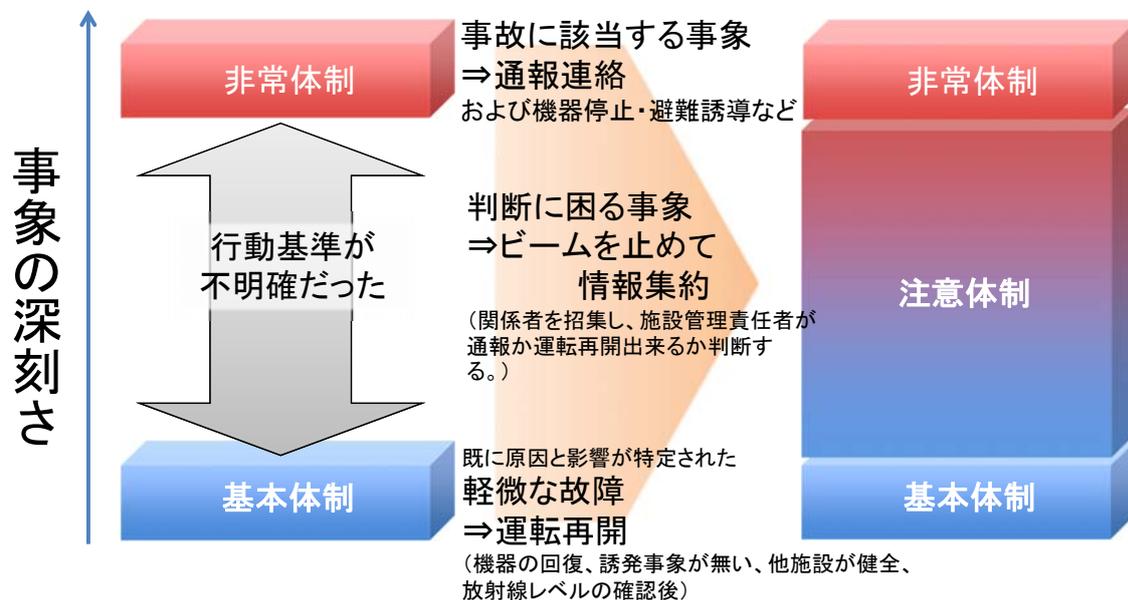
施設管理責任者の役割

- 各施設運営の統括責任
- 各施設の事象を把握し適切な判断
- 注意体制時の最高責任者、指揮者
- 緊急時には安全統括の指揮下

9

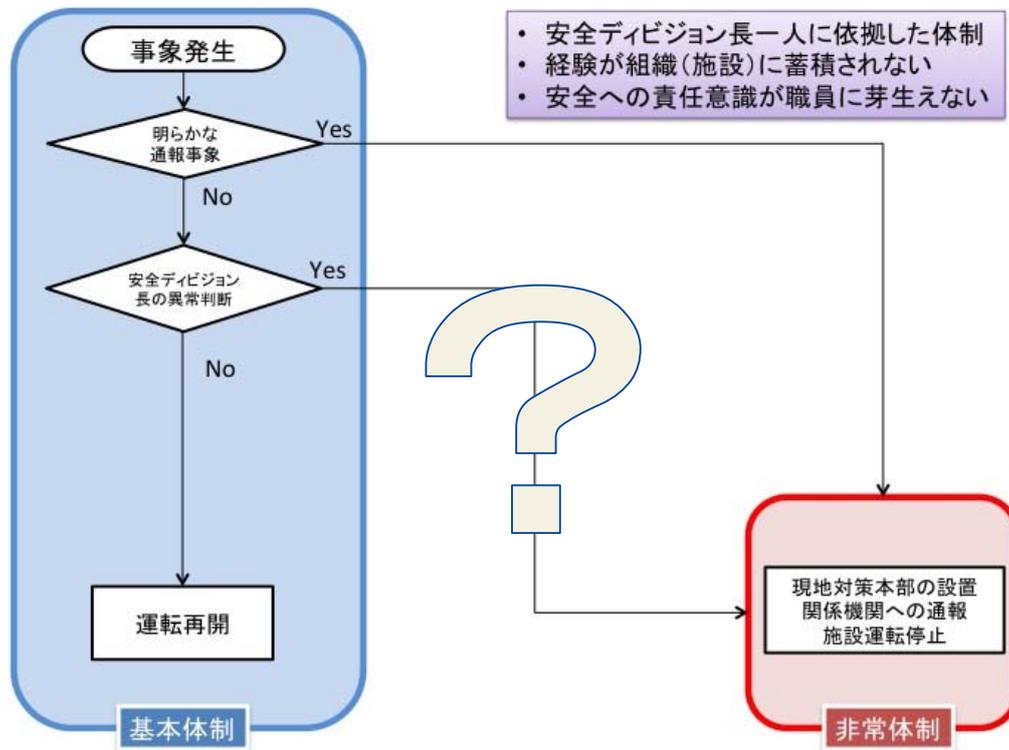
「注意体制」で、即行動

- 行動基準が曖昧であった従来を反省し、すぐに行動に移せるように「注意体制」を定義。

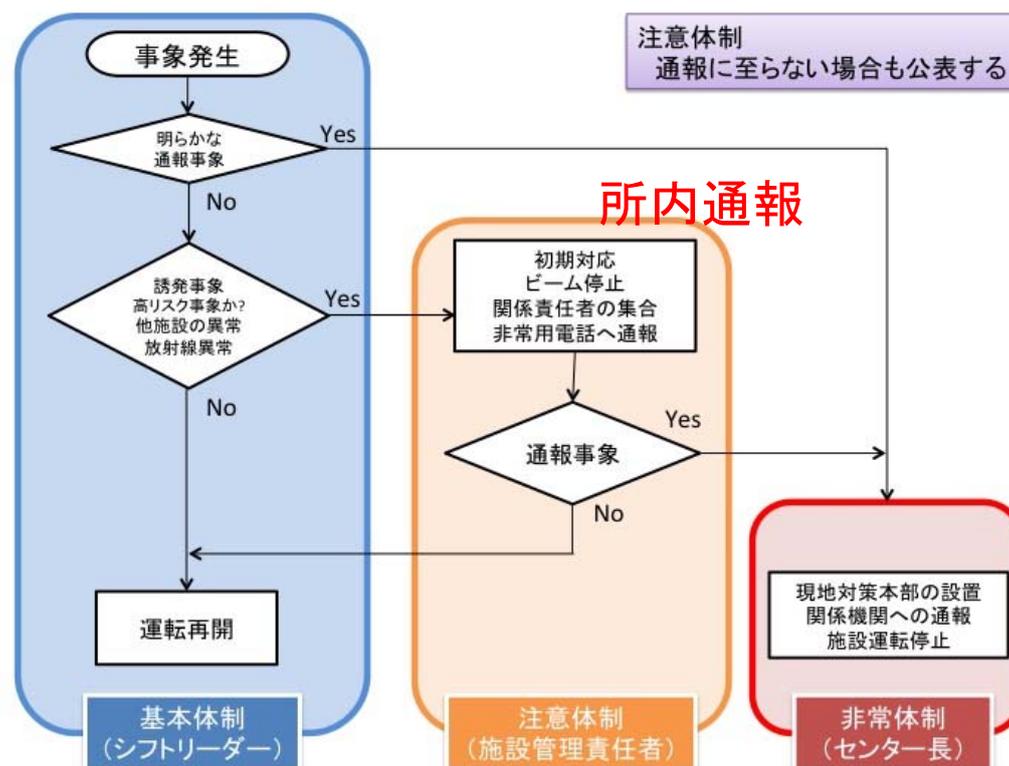


10

異常発生! (改善前)



異常発生! (改善後)

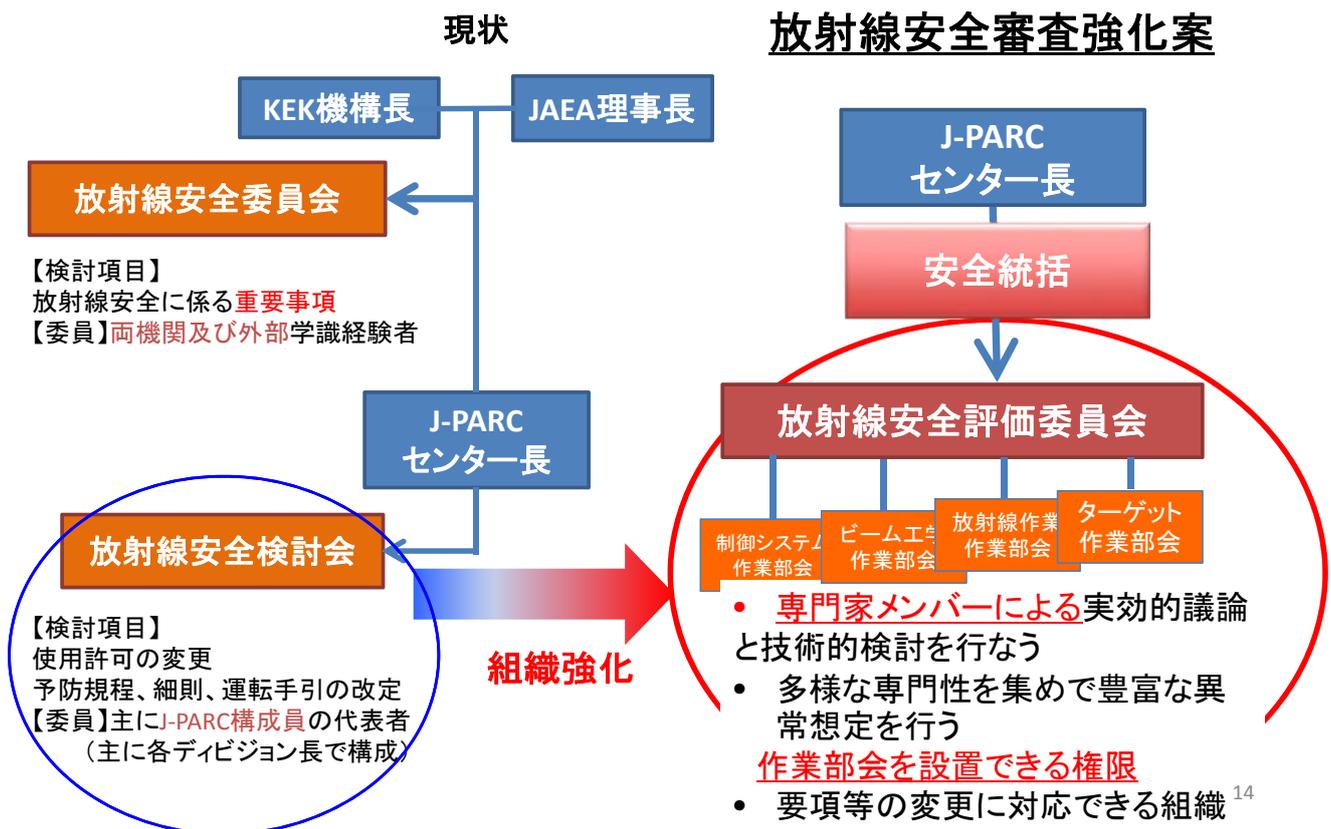


安全審査の強化

- センター長の元に放射線安全評価委員会
- 実効性のある審査：
 - 外部専門家を含む専門家で審議
 - 課題ごとに専門部会
 - 例えば
 - ミュオン回転ターゲットの新たな設置
 - 使用後水銀ターゲットの交換作業
 - ハドロン標的の新たな設計評価
 - センターが責任をもって申請

13

放射線安全に係る委員会組織の強化案



J-PARC安全宣言！

再生J-PARCは、新しい安全管理体制と安全審査体制を構築し、「安全無くして研究無し」という基本理念のもと、ユーザと共に

「安全な実験環境と世界的研究成果の創造」

を目指します。

平成25年8月9日
J-PARCセンター長
池田裕二郎





安全カード

No Safety, No Research

- + 放射線はクローズ、情報はオープン
- + 迅速な行動／決断は日頃の備えから
- + “オープンマインド”は研究と安全の基本
- + ひとりひとりの危機意識・みんなの安全

17

まとめ

- J-PARCを安全優先の研究施設として再生する為の安全組織の構築
- 安全文化創成の為の3つの柱
 - 組織の改革:「安全推進室」の設置と審査体制強化
 - 現場の行動基準の明確化:「注意体制」と手引き類改訂
 - 教育・訓練による不断の改善努力
- 形骸化させない**決意**
 - センター員、ユーザ一人一人が安全に責任を担っていることを意識してもらう。
 - センター長をはじめとするマネジメントの安全への熱意を持続して伝える。

両機構が支える
J-PARCの安全とサイエンス

宇宙・物質・生命・エネルギー

